

負けへんで！

(仮題)

劇場用長編映画 企画書



原作：山岸 忍

(株)文藝春秋刊

作成元 ポケット(株) (有)ムスタッシュ

企画意図



一代で不動産会社を興し、上場企業にまで成長させた成功者に突如災いが降りかかる。検察が土地買収事件の犯人として逮捕したのだ。本人に自覚のない筋書きが検察の手によって作られ、罪人に仕立て上げられていく。頂点からどん底に落とされてしまった男が、自身の無実を主張し、おのれの全てを賭けて国家権力を相手に挑む。壮絶な戦いの結果、約2年後、冤罪を晴らす。普通に暮らす人々にも突然に降ってくるかもしれない危険について、本事件の詳細と経緯を映画化・エンターテインメント化し、広く市井の方々に知って頂く作品である。

描くべき要点と 課題



- ・主人公に降りかかった冤罪という恐怖の経験と孤独感
- ・自身は無罪だという信念と、全てを投げ捨ててでも戦い抜いた強い姿勢
- ・主人公を支援する人々（弁護団、家族、友人）の愛情と熱い想い
- ・国家権力もまた引き下がらず、民間人の主人公を強固に追い詰めていく圧力

幅広く多くの方に観てもらえるようにエンターテインメント化を行い、鑑賞後に感動のある作品に仕上げる

国家権力に対しても卑屈にならず、正義を貫いたことで観る人に勇気を与える

- ・書籍同様に事実を映画化するので、具体名や実在の人物等の権利に抵触しないように注意を払う→出版元の文藝春秋社や弁護士団の監修は入れるべき
- ・事件の構図が判りづらい→何故、主人公が誤認逮捕に至ったのかを判り易く説明する必要がある

**主人公は裁判に於いては一度も負けてはいない
→この点だけは頑なに守る**

主な登場人物

主人公：山藤繁(55～58) ローブコーポレーション代表取締役社長

盟友：前澤大作(55～58) 信幸ホールディングス代表取締役社長

社員：小森郁夫(50～53) ローブ社員(肩書は子会社の社長)

仕事仲間：山本武史(52～55) TMO代表取締役社長

弁護士：中嶋圭樹(57) 元検事、山藤に最初から寄り添う弁護士

弁護士：東幸紀(29) 現役の裁判官、弁護士の職務経験中

弁護士：大和田政樹(64) 証人尋問のエキスパート

大阪地検特捜部検事：鈴鳴通子(45) 山藤を取り調べる検事

大阪地検特捜部検事：代沢浩司(45) 山本担当の検事

大阪地検特捜部検事：橋詰隆(39) 小森担当の検事

山藤の妻：山藤恵子(40) 釈放後正式に結婚、勾留中の山藤を支える

ストーリー

大手不動産会社ローブコーポレーション代表・山藤繁(55)は、一代で2000億円企業に育て上げ、東証一部上場を果たした経営者として、多忙な毎日を送っていた。

部下であり、子会社社長の小森郁夫(50)が魅力的な土地である学校法人・安城学院の案件を提案してくる。土地売買契約を進めるため、「再建資金」として社長個人で18億円を貸し付けてほしいと持ち掛ける。山藤は共に案件を進めるフィットネスクラブ仲間の山本武史(52)への信頼もあり2016年3月、貸付を承諾。2017年7月、ローブコーポレーションは安城学院と正式に土地売買契約を締結し、手付金21億円を支払う。

2年後(2019年7月)新聞で安城学院の土地売却手付金21億円が行方不明という記事を見て驚いた山藤は、小森に即刻取引を白紙に戻すように命じるが10月大阪地検特捜部から山藤へ突然の出頭要請。ローブコーポレーションに特捜部の強制捜査が入り、小森、山本、安城学院元理事長・佐橋久美子が相次ぎ逮捕される。

出頭した山藤の担当検事はコテコテの大阪弁で人当たりも良く美魔女の鈴鳴通子(45)。聴取の論点は山藤が2016年に個人で貸付けた18億円のこと。2017年にはローブコーポレーションから安城学院に支払われた手付金21億円から、山藤個人で貸付けた「再建資金」18億円は返金されていた。ところが「再建資金」として貸付けた18億円は安城学院には支払われていなかった。特捜部は18億円は買収に使われ、手付金21億円から返金された18億円は横領と見做し、山藤を業務上横領罪で逮捕(2019年12月)。すぐに拘置所に移送され、非人道的扱いを受け独房で孤独な日々を送る山藤。創業した会社をも失う。そんな中、自分の味方だと勘違いさせるようなフレンドリーな鈴鳴検事の取り調べを受ける。勾留は248日間におよんだ。

山藤は小森・山本の裏切りを知り何度も心が折れそうになるが、「人質司法」の現状の中、弁護士の中嶋圭樹(57)、東幸紀(29)、大和田政樹(64)、井上マリ(38)とチームを組み、盟友の前澤大作(55)にも支えられながら、何度も保釈請求を試みる。まだ正式に結婚はしていなかったが内妻の恵子(40)も勾留中の山藤を手紙で激励する。6度目の保釈請求で2020年8月ついに保釈が認められる。

無罪を勝ち取るための公判が2021年5月から開始。佐橋・小森と証人出廷が続き証人尋問のエキスパート大和田弁護士の手腕のお陰で、勝負は五分五分。夜を徹して聴取の録音録画を検証し続けていた東弁護士もついに「重要局面」を発見する。山場となる局面で山本も証人として出廷。山本は調書の内容は代沢検事の強要による虚偽供述だったと明言し、東弁護士が発見した橋詰検事の強要による小森の虚偽供述も明白となり、10月ついに山藤に無罪判決が下る。

突然襲ってきた冤罪事件を通して、山藤は二度と非道な事件が起きぬよう、家族を守り、人を守り、社会を守る、そのために身を挺して戦うことが己の本当の「生きる道」と確信する。

監督：本木克英

1963年生まれ。富山県出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、松竹に助監督として入社。森崎東、木下恵介、勅使河原宏などに師事。1998年『てなもんや商社』で監督デビューし、第18回藤本賞新人賞を受賞。2014年『超高速！参勤交代』で第57回ブルーリボン賞作品賞、第38回日本アカデミー賞優秀監督賞、2018年『空飛ぶタイヤ』で第42回日本アカデミー賞優秀監督賞などを受賞。映画のほかにTVドラマや2018年Amazonプライム・ビデオのオリジナルドラマ「しろときいろ～ハワイと私のパンケーキ物語～」や2020年WOWOWプライム連続ドラマW「大江戸グレートジャーニー～ザ・お伊勢参り～」など多数の監督作品がある。2022年より日本映画監督協会の理事長に就任。

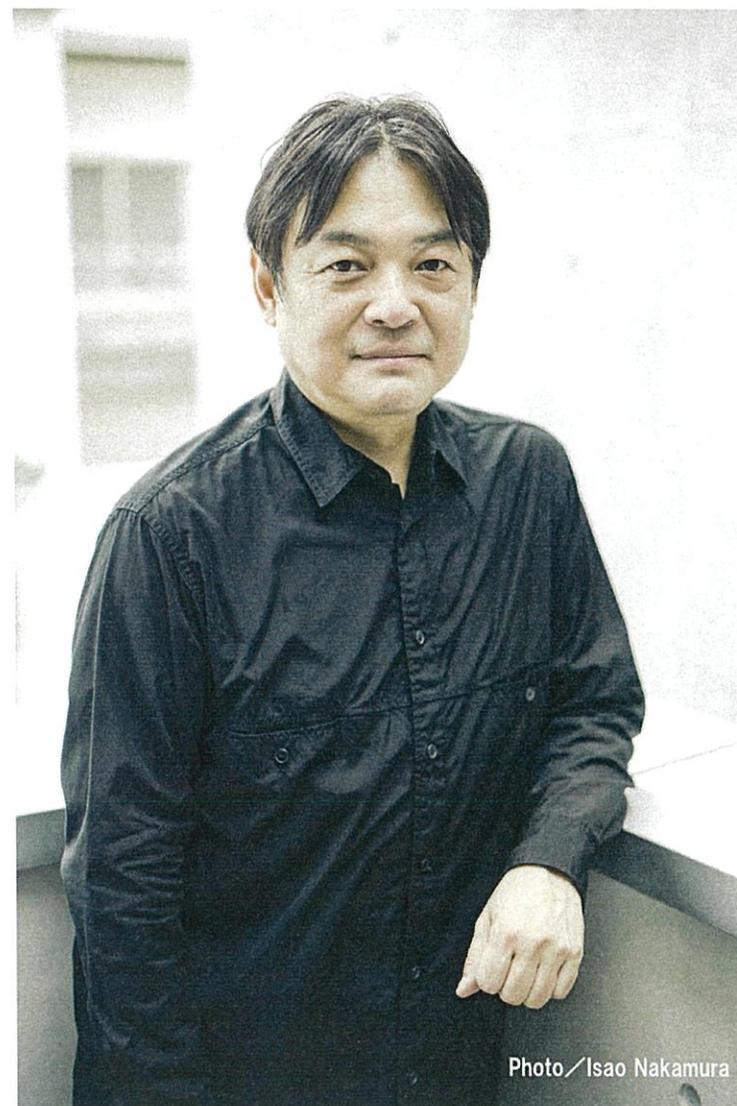
主な映画公開作品は、2000年～2002年『釣りバカ日誌』シリーズ11～13

2007年『ゲゲゲの鬼太郎』2008年『犬と私の10の約束』2008年『ゲゲゲの鬼太郎千年呪い歌』2009年『鴨川ホルモー』2012年『おかえり、はやぶさ』

2013年『すべては君に逢えたから』2014年『超高速！参勤交代』2016年『超高速！参勤交代リターンズ』2018年『空飛ぶタイヤ』2019年『映画 少年たち』

2019年『居眠り磐音』2021年『大コメ騒動』他。

2023年『シャイロックの子供たち』最新作2024秋『カーリングの神様』などがある。



Photo/Isao Nakamura

脚本：吉川次郎

1963年埼玉県生まれ。日大芸術学部映画学科卒業後、故・伊丹十三監督の元で10年間アシスタントを務め、伊丹流のエンターテインメント技法を学ぶ。監督の没後独立してフリーの脚本家に。

渡辺謙主演「異端の夏」(2003年)でドラマデビュー。主な映画作品に『なで肩の狐』(1998年)、『たとえば檸檬』(2012年)、その他「ミナミの帝王」シリーズや多数のテレビドラマ作品を手掛ける。好評を博した近作のNHKドラマシリーズ「山女日記」(2016～2021年)では企画と全話の脚本を担当。現・日大芸術学部文芸学科講師。最新作は映画『孤独な楽園』(2023年秋)



主演候補：内野聖陽



【主な出演作】

★テレビドラマ

- 「連続テレビ小説 ふたりっ子」(1996年 NHK総合)
- 「ミセスシンデレラ」(1997年 フジテレビ)
- 「ラブジェネレーション」(1997年 フジテレビ)
- 「蝉しぐれ」(2003年7月期 NHK) ※主演
- 「不機嫌なジーン」(2005年1月期 フジテレビ)
- 「ゴンゾウ 伝説の刑事」(2008年7月期 テレビ朝日) ※主演
- 「JIN-仁-」(2009年10月期 TBS)
- 「きのう何食べた？」(2020年1月期 テレビ東京)
- 「連続テレビ小説 おかえりモネ」(2021年 NHK総合)
- 「きのう何食べた？～season2～」(2023年10月期 テレビ東京)

★映画

- 「ハル」(1996年 松竹) ※主演
- 「黒い家」(1999年 松竹) ※主演
- 「海難1890」(2015年 東映) ※主演
- 「鋼の錬金術師 完結編 復讐者スカー/最後の錬成」(2022年 ワーナー・ブラザーズ映画)
- 「春画先生」(2023年 ハピネットファントム・スタジオ) ※主演
- 「八犬伝」(2024年 キノフィルムズ)

★舞台

- 「笑の大学」(2023年)
- 「芭蕉通夜舟」(2024年)

制作～公開まで のスケジュール イメージ



- 2023年 5月 映画企画進行開始
- 8月 主要スタッフ（演出家・脚本家・制作管理プロ
デューサー）決定
- 11月 ロングプロットを通して大筋確認、
山岸社長及び前田社長へのご挨拶とスタッフの紹介
- 2024年 1月～ 脚本完成及びキャストの決定～製作打合せ
- 2025年 撮影（調整中）
- 2026年 完成及び初号試写・宣伝開始
全国公開300館程度想定

※作業の進行の程度によりズレが生じることがある

※劇場公開にあたっては、同時期に公開される競合作品の状況を鑑みて決定したい

協力機関



企画製作：信和ホールディングス+TSUKUYOMI

幹事会社：信和ホールディングス+TSUKUYOMI

幹事業務受託社：ポケット+ムスタッシュ

制作会社：松竹撮影所

配給会社：松竹（第一候補）、企画（キャスト他）決定後に配給委託先として検討

二次利用：松竹、中央映画貿易、他適任社を今後検討していく

企画協力：文藝春秋